



2022年4月19日

各 位

会 社 名 第一稀元素化学工業株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 井上 剛
(コード番号：4082 東証プライム)
問合せ先 上席執行役員 管理本部長 寺田 忠史
TEL. (06) 6206-3311

営業外収益（為替差益）の計上、特別損失の計上、及び繰延税金資産の取崩し
並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会にて、2022年3月期第4四半期において、営業外収益（為替差益）の計上、特別損失の計上及び繰延税金資産の取崩しを行うこと、また、2022年3月期連結業績予想を下記の通りとすることを決議しましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外収益（為替差益）の計上について

当社は、2021年8月10日にお知らせしました2022年3月期第1四半期累計期間の営業外収益（為替差益）531百万円の計上に加えて、外国為替相場の変動に伴い、2022年3月期第2四半期から第4四半期（2021年7月1日から2022年3月31日）において、為替差益が約1,561百万円発生する予定です。これは、主に当社グループで保有する外貨建資産・負債に対し発生したものです。

2. 特別損失の計上について

当社は、ジルコニウム化合物のサプライチェーン強化のため、2012年3月、連結子会社であるVIETNAM RARE ELEMENTS CHEMICAL JOINT STOCK COMPANY（以下、VREC）を設立し、2016年6月からベトナム国内で産出されるジルコニウム鉱物を用いたオキシ塩化ジルコニウムを製造販売する事業活動を開始しました。2016年12月にはVRECの増産投資の検討を開始しましたが、当時ベトナム南部においてVRECが必要とする量のジルコニウム鉱物を生産する会社は存在しませんでした。そのような状況において、ベトナム南部の鉱物事業会社であるDuong Lam Joint Stock Company（以下、DL）はVRECが必要とする量を満たすジルコニウム鉱物の増産を計画しておりました。DLへの投資を企図し、DLの企業買収による組織再編を行おうとしているSolid Success International Limited（以下、SSI）に対し当社は、VRECが主原料とするジルコニウム鉱物の長期安価・安定調達を目的に、2018年6月から出資手続きを進め、株式譲渡契約に基づき、2019年1月までにSSIの株式取得資金をSSIの株主へ支払いました。しかしながら、SSIの関係会社等とDLの株主との間で2019年6月に発生した株式譲渡等に関する訴訟が未だ解決に至っておらず出資手続きが停滞していたことに加え、訴訟の影響を受けてDLの事業活動が停滞しており、VRECとDL間で締結している売買契約に基づくジルコニウム鉱物の納入も停滞しておりました。当社は、この状況を改善してDLの組織再編及び事業活動の再開のため、和解の交渉を行ってまいりました。しかし、和解の見込みが立たないことから、SSIの株主との間で締結した株式譲渡契約に規定した義務の履行、DL株式価値の算定及びDLが事業活動を再開してVRECとDL間で締結している売買契約の履行が早期に実行できる見通しが立たないこと等を総合的に判断して、本日開催の取締役会で、SSIの株主との間で締結した株式譲渡契

約の解除を決議しました。当該決議に伴い、早期にDLの事業活動の再開の見通しが立たないことから、当社がSSIの株主へ支払った長期前払金に関し、担保権を設定したDLの株式価値による回収可能性がないと判断し、2022年3月期連結会計年度において長期前払金全額について貸倒引当金を設定し、未引当分である1,804百万円を貸倒引当金繰入額として特別損失を計上する決定を行いました。また、DLの事業活動の再開の見通しが立たないことから、上記のジルコニウム鉱物の売買契約を解除し、当該契約に基づく前渡金546百万円を前渡金評価損として特別損失に計上する決定を行いました。

これに対し、ベトナム南部におけるジルコニウム鉱物を産出するその他の企業の規模が拡大したことにより、DL以外の調達先との関係構築に努めた結果、VRECで必要とするジルコニウム鉱物をDL以外から調達できる見通しであり、オキシ塩化ジルコニウムの市場価格も上昇しているため、現在ベトナムで実施しております投資への影響は見込んでおりません。また、長期前払金に対する貸倒引当金繰入額及び前渡金評価損を特別損失として計上いたしますが、当該長期前払金と前渡金に対する返還請求権を行使することで最大限の回収を図ってまいります。

3. 繰延税金資産の取崩しについて

貸倒引当金の追加計上による将来減算一時差異の増加に伴い、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」に基づく会社分類の見直しを行った結果、繰延税金資産を507百万円取崩すこととしました。

4. 2022年3月期連結業績予想の修正について

(1) 2022年3月期連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 29,200	百万円 3,000	百万円 3,800	百万円 2,800	円 銭 115.30
今回修正予想 (B)	29,360	3,800	6,030	1,620	66.99
増減額 (B) - (A)	160	800	2,230	△1,180	—
増減率 (%)	0.5	26.7	58.7	△42.1	—
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	23,465	2,015	2,131	1,235	50.91

(2) 業績予想修正の理由

当第四半期連結会計期間の売上高は、コロナ禍からの回復基調が継続したことに加え、主原料価格の高騰による販売単価の上昇により増加いたしました。営業利益は、当第3四半期までに積み増しを行った在庫の適正化に向けた生産調整により操業度は低下したものの、主原料の市場価格に比較的早期に連動する販売単価と販売単価に対し遅効性のある在庫単価の差による増益効果等により、業績予想を上回る見込みです。経常利益は、営業利益の増益に加え、先述の為替差益の拡大等により、増加する見通しです。一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、先述の特別損失の計上及び繰延税金資産の取崩しにより減少する見込みです。よって、2022年3月期連結業績予想を上記のとおり修正いたします。

(注) 上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び当社が合理的であると判断した前提に基づいて作成したものであり、実際の業績につきましては様々な要因の変化により、予想数値と異なる場合があります。

以上